



三井化学
グループ

**化学の力で社会課題を解決し、多様な価値の創造
を通して持続的に成長し続ける企業グループ**

証券コード
4183

2025年5月23日
三井化学株式会社
常務執行役員 CFO 吉田修



今メガネをかけて画面を見ている方



ご愛用のお車を運転する方



この前のご旅行でたくさんスマホで
写真を撮った方



今メガネをかけて画面を見ている方



ご愛用のお車を運転する方



この前のご旅行でたくさんスマホで
写真を撮った方

三井化学製品をご愛用いただいている**可能性が非常に高い**



なぜそう言える？

世界シェア **No.1**

メガネレンズ材料



薄くて丈夫なレンズ、クリアな視界

世界シェア **No.2**

自動車材料



より軽く、低燃費な自動車

世界シェア **No.1**

スマホカメラレンズ材料



小さなレンズでクリアに映す

多様な市場のニーズに応える高機能製品

皆様がお持ちかもしれないこんなイメージや疑問を・・・

名前は聞いたことある

歴史のある企業



三井化学

総合化学企業、結局何をやってるのか

株主にとって三井化学はどんな企業？

こんな気づきに変えることです

これも、これも世界トップシェア？

確かにこの市場、伸びそうだな



三井化学

三井化学、意外と身近にいたんだ

過去の実績を見ると分かる、安定した株主還元

化学企業だからこそ、サステナビリティへの本気の取り組み

1. 三井化学とは
2. 株主還元
3. 三井化学の事業



1. 三井化学とは

明治45年（1912年）三井鉱山の石炭化学事業を発端に様々な化学事業に取り組む

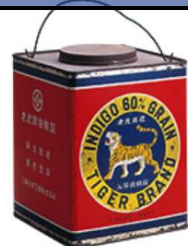
日本初、世界初の技術と取り組み

● 1915 **日本初**

合成染料
「アリザリン」
工業化

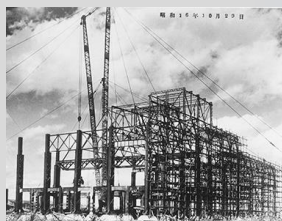
● 1932 **日本初**

合成染料
「インジゴ」
生産開始



● 1948 **世界初**

肥料原料
尿素
大量生産



● 1958 **日本初**

エチレン
プラント操業



● 1998 **世界初**

高機能包装材料
エボリュ®
生産開始



● 2021 **日本初**

バイオマス原料で
プラスチック・
化学品製造開始



社会課題解決の歴史

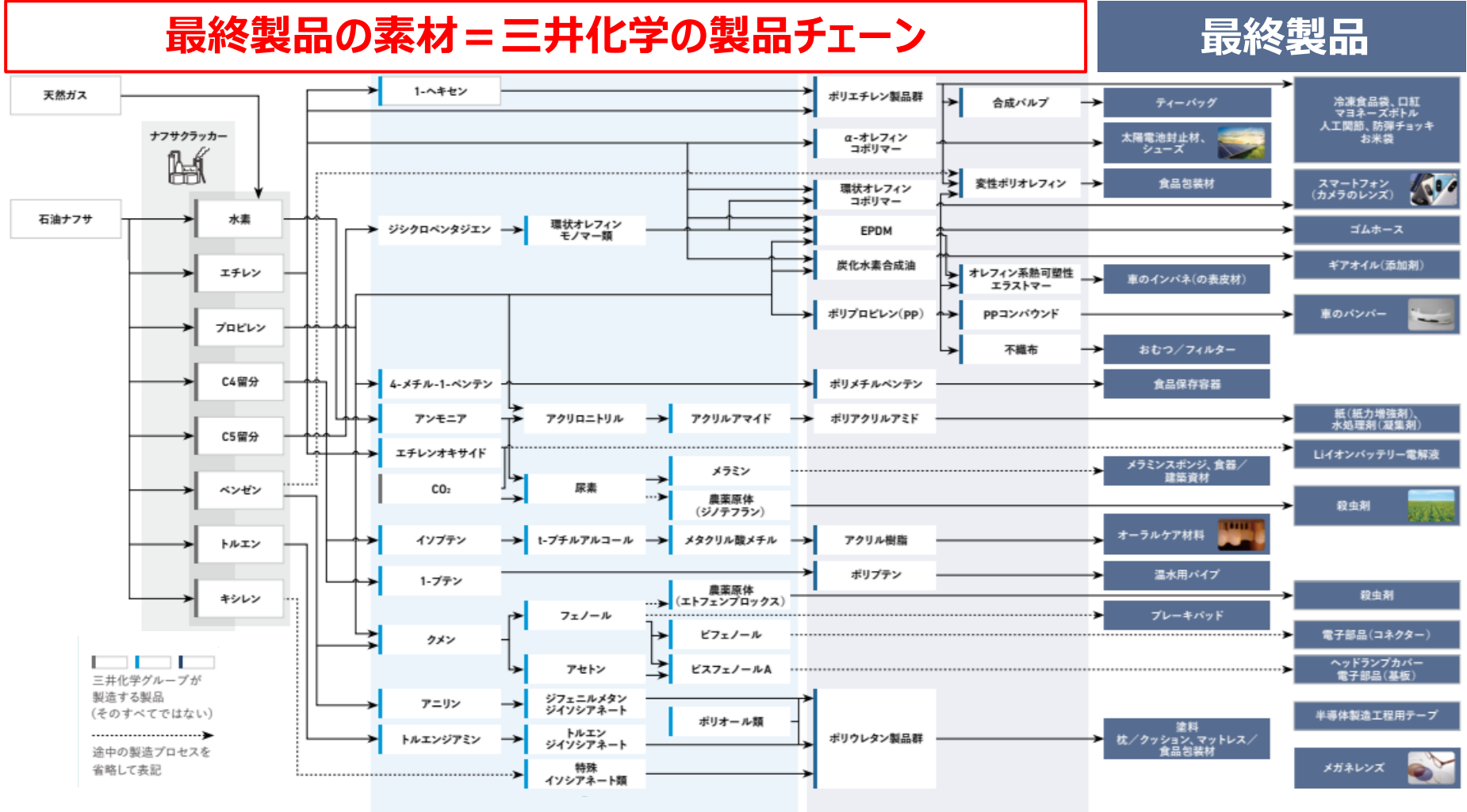
戦後の食糧危機に対応

日本の近代化に貢献

グラフ：売上高推移

グリーンケミカル実現に向け新たな挑戦

細かすぎて見えないほど、多様な最終製品の素材となる長い製品チェーンを持っています



本図は原料から最終製品までの一部フローを図式化したものです。

最終製品だけ拡大すると・・・あんなものにも繋がっている

ティーバッグ

口紅

人工関節

防弾チョッキ

車のバンパー

マットレス

太陽電池



半導体製造工程用テープ

殺虫剤



靴のソール



ギアオイル

建築資材

オーラルケア材料

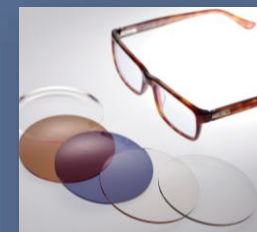


おむつ



スマホカメラレンズ

食品包装材

メガネ
レンズ

PORTOFOLIO

IV ベーシック&グリーン・マテリアルズ

石油化学製品 バイオ原料・誘導品 など



PORTOFOLIO

III ICTソリューション

スマホカメラレンズ材料
半導体・電子部品工程部材
高機能食品包装材料 など



PORTOFOLIO

I ライフ&ヘルスケア・ソリューション

メガネレンズ材料 農業化学品

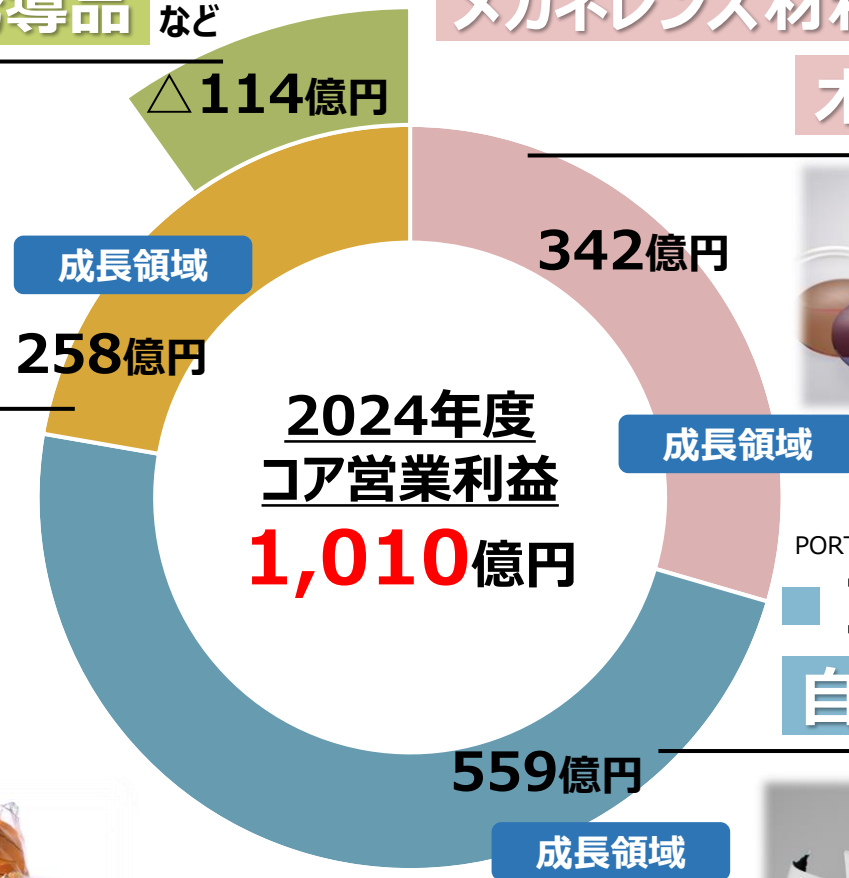
オーラルケア材料 など



PORTOFOLIO

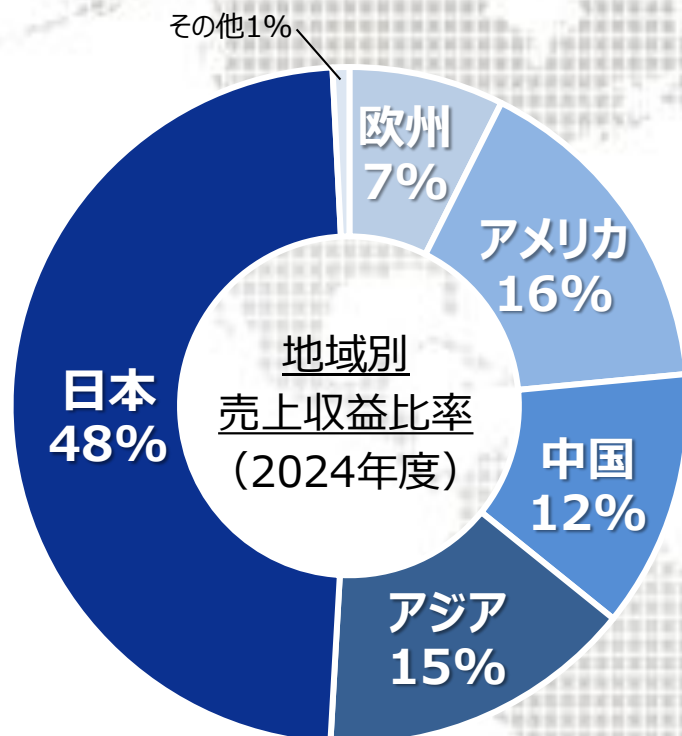
II モビリティソリューション

自動車材料 太陽電池材料 など



*その他全社費用等 △35億円

グローバルに高収益・高成長事業を展開する、グローバルスペシャリティカンパニーを目指す



海外売上収益比率

2001年度
25%

52%

グローバル展開

2001年度
14か国

31か国

連結対象会社数

156社

うち海外

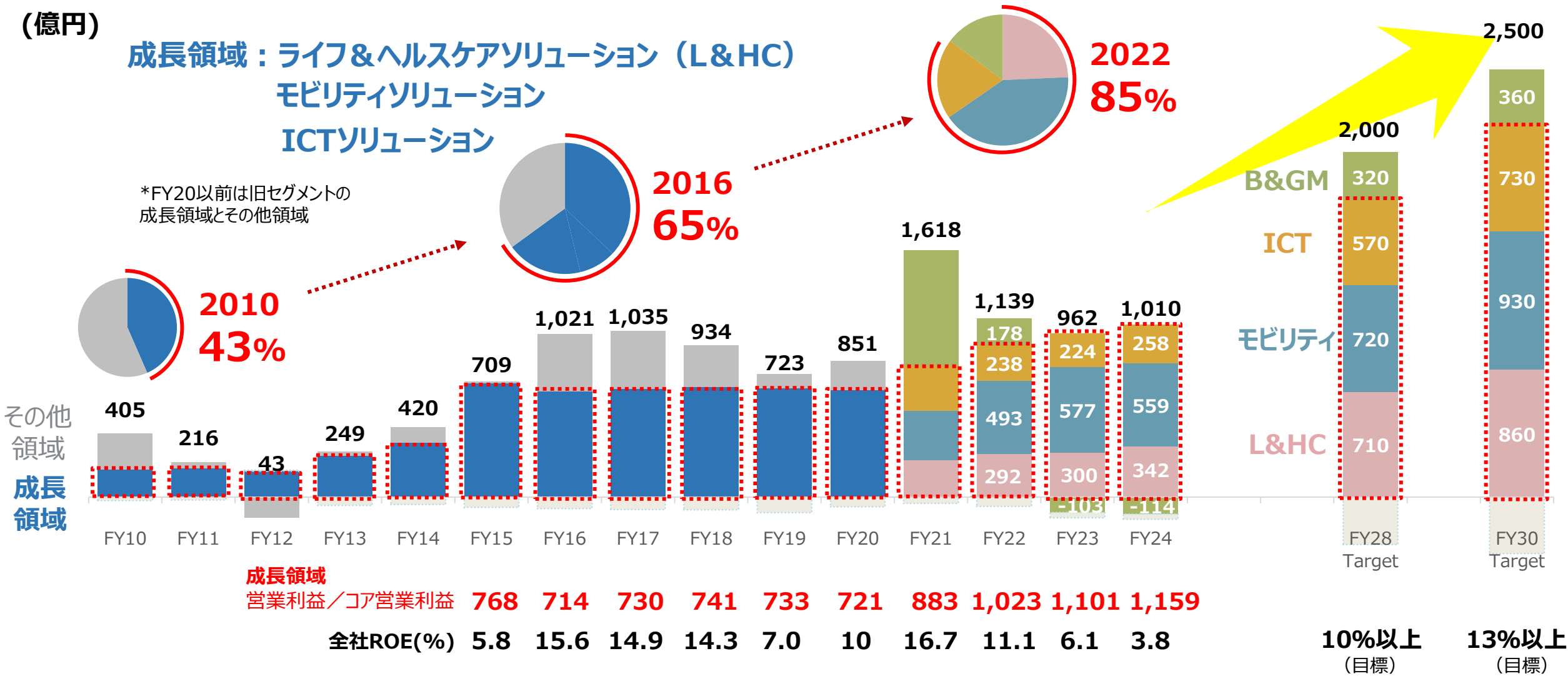
106社 (66%)

ポートフォリオ変革を進め、『成長領域』が全社を牽引

(億円)

成長領域：ライフ＆ヘルスケアソリューション (L&HC)
モビリティソリューション
ICTソリューション

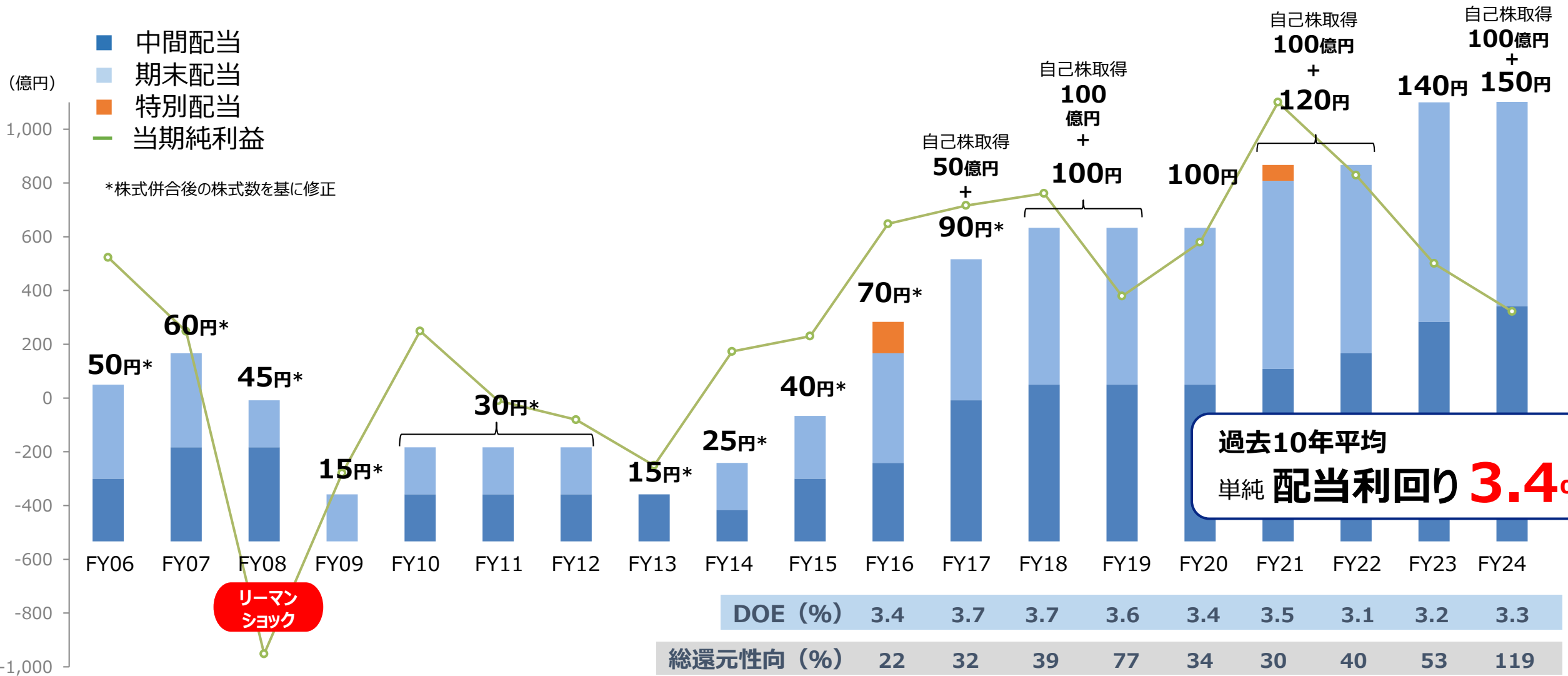
*FY20以前は旧セグメントの成長領域とその他領域





2. 株主還元

収益に苦しんだ時期も含め過去より安定かつ継続的な配当を実施



株主還元方針

資本効率向上と安定的かつ継続的な配当の実現

- ✓ 総還元性向40%以上
- ✓ DOE*3.0%以上を目指す
- ✓ 機動的かつ柔軟な自己株式取得

● 25年度配当予想

中間

期末

年間

$$75_{\text{円/株}} + 75_{\text{円/株}} = 150_{\text{円/株}}$$

*DOE：自己資本配当率＝年間配当総額／自己資本



3. 三井化学の事業

1



健康長寿
社会

2



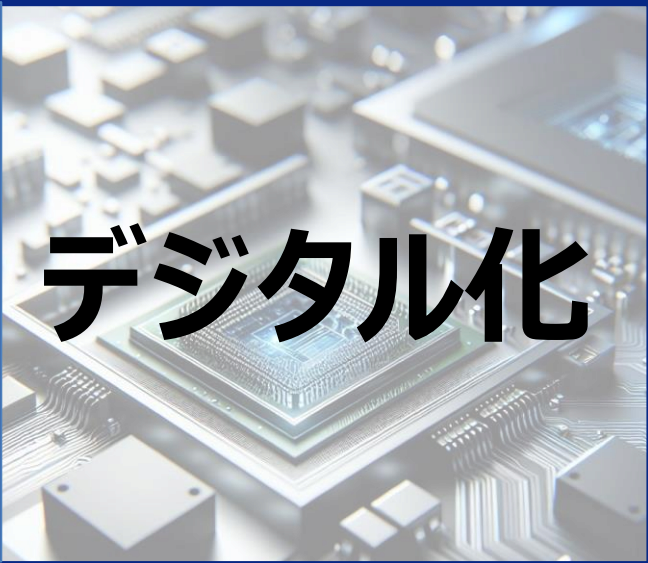
食糧問題

3



電気
自動車
次世代モビリティ

4



デジタル化

5



持続可能
な社会



1. 健康長寿社会

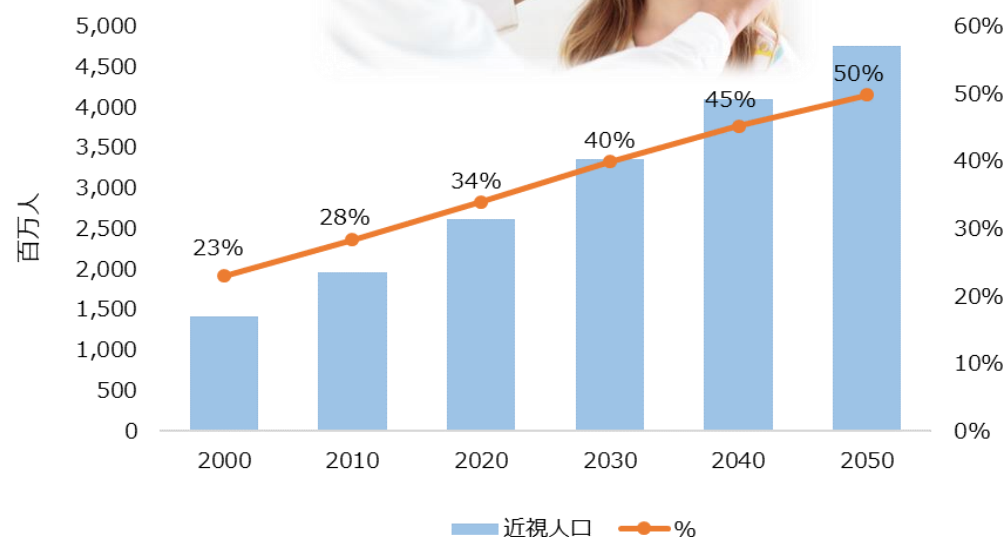
世界で最も選ばれている
メガネレンズ材料

メガネをより軽く、強く、見やすく。



2050年 近視人口は世界の50%近くに 高齢化、眼の健康意識の向上、より快適なメガネニーズなどに応える高付加価値領域に注力

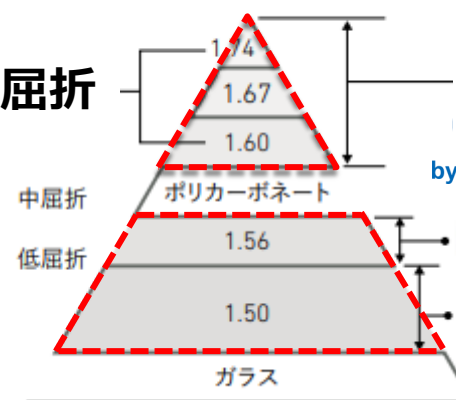
グローバル近視人口



American Academy of Ophthalmology, 2016年

メガネレンズ材料の分類

高屈折



世界シェア
No.1

MR™
by Mitsui Chemicals

MLTECH

ACOMON

メガネレンズ材料
市場全体
成長率 3%

高屈折市場
成長率 6~7%

高付加価値領域

* 赤枠：三井化学グループが取り扱う領域

三井化学の世界No.1シェア高屈折レンズ材料MR™が選ばれる理由とは



by Mitsui Chemicals

世界で選ばれる理由

度数が高くても
薄くて軽い

クリアな視界

さまざまなデザインに
高い加工性

割れにくく、安全

.....▶ メガネそのものの需要増に加え、他素材からの置き換えが進む

高屈折市場成長率

6~7%

～MR™実験動画をご覧ください。～



by Mitsui Chemicals

世界で選ばれる理由

度数がなくても
薄くて軽い

さまざまなデザインに
高い加工性

クリアな視界

割れにくく、安全



.....▶ メガネそのものの需要増に加え、**他素材からの置き換えが進む**

高屈折市場成長率

6~7%

他素材（ポリカーボネート）が主流の米国市場にて

コストコ社によるMR™の標準採用

21年3月～



COSTCO
WHOLESALE

他素材（アクリル）が主流の中国市場にて

中高級小売り向け拡販戦略推進



2. 食糧問題

農業化学品

**農作物の
安定生産、食料増産に貢献**



成長著しいブラジル、インド、東南アジアを中心に海外ビジネスが急拡大

**化学農薬の安全性・環境負荷低減
を追求**



**農業用・家庭園芸用農薬に加え、
ペット用駆虫薬、蚊防除剤用途など
幅広い製品を国内外に展開**

当社グループ注力エリア

* 市場規模 22年実績、
市場成長率 22年～27年 データ (AgbioInvestor社、一部当社推計)

インド

市場規模 **\$3.5B**

市場成長率 **4%**

東南アジア

市場規模 **\$3B**

市場成長率 **2%**

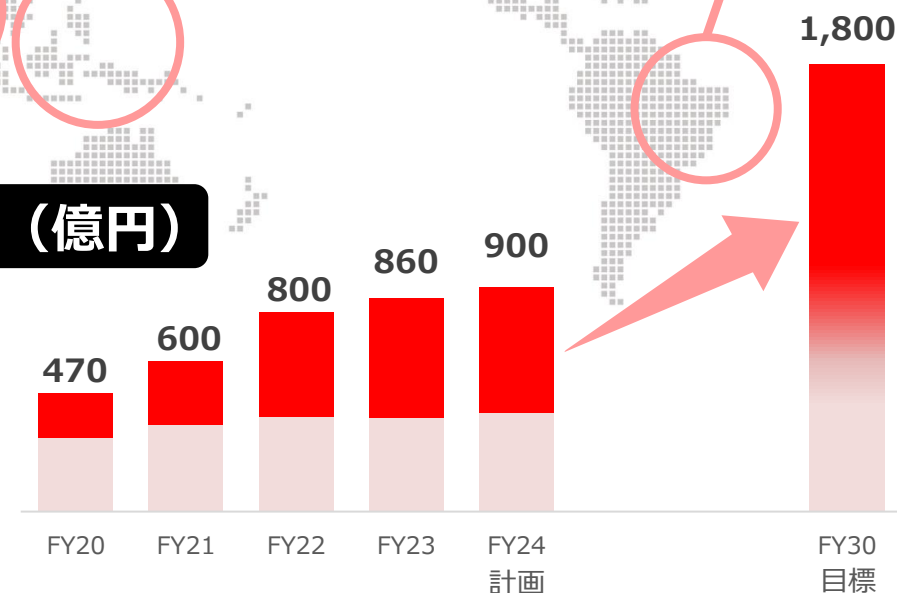
ブラジル

市場規模 **\$14B**

市場成長率 **4%**

売上収益（億円）

■ 海外
■ 国内





複数の海外拠点活用、海外パートナー企業への出資で世界で存在感のある事業体へ

欧州

市場規模 **\$14B**
市場成長率 **2%**



インド

市場規模 **\$3.5B**
市場成長率 **4%**



世界

市場規模 **\$11B**
市場成長率 **0%**

* 市場規模 22年実績、
市場成長率 22年~27年 データ (AgbioInvestor社、一部当社推計)

日本

市場規模 **\$3B**
市場成長率 **-1%**



東南アジア

市場規模 **\$3B**
市場成長率 **2%**



米国

市場規模 **\$11B**
市場成長率 **0%**



ブラジル

市場規模 **\$14B**
市場成長率 **4%**



● 本社
● 営業所等
● 研究所
● パートナー企業

当社グループ注力エリア



Meiji Seika ファルマの農薬事業取得

2022年1月



環境に配慮した天然物由来農薬

を含む新たな製品ポートフォリオ、
国内外顧客基盤、創薬・製剤技術を獲得

マラリア根絶に向けて



マラリアを媒介する蚊の殺虫剤

VECTRON™ T500をアフリカ諸国で上市

蚊防除剤やペット用駆虫薬など
農薬以外の分野にも事業拡大を進める



3. 電気自動車 次世代モビリティ

多様な自動車材料

次世代モビリティの
自動車軽量化ニーズに応える



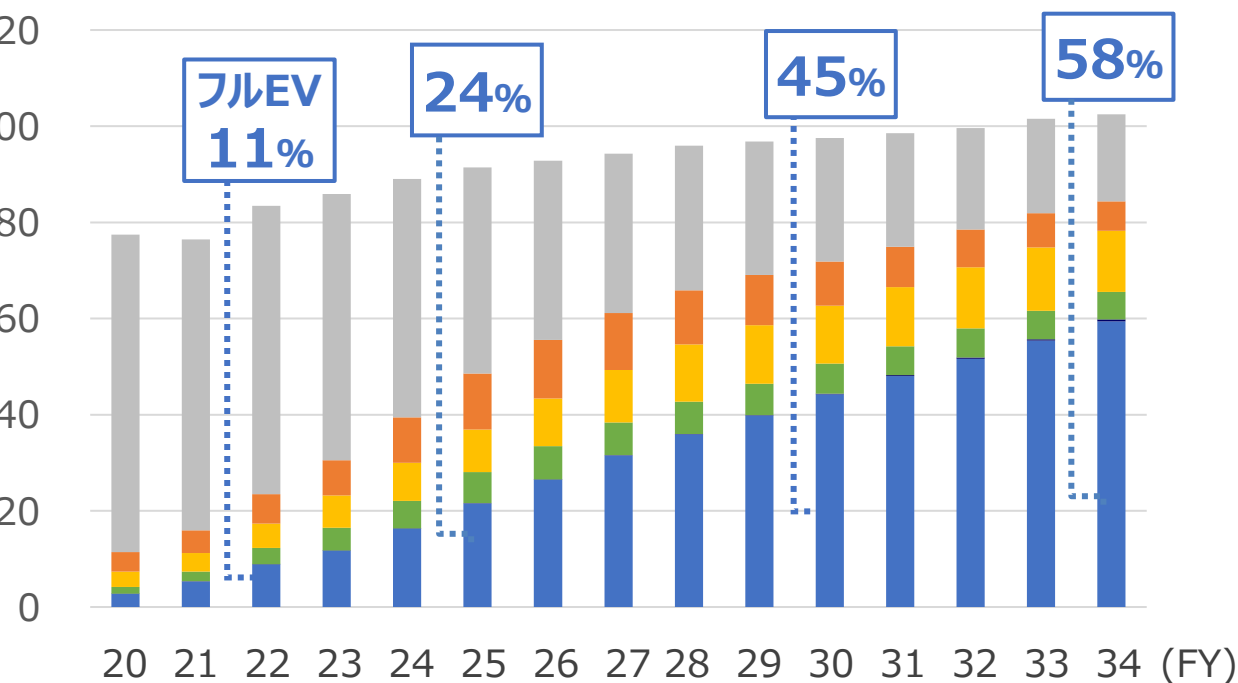
電気自動車（EV）をはじめ次世代モビリティの普及により、軽量化ニーズが高まる

▶▶▶ 金属→樹脂への材料転換（当社製品使用量の増加）

世界自動車生産台数

(百万台)

出典：S&P Global Mobility 23年5月



■ ICE（ガソリン/ディーゼル） ■ Hybrid-Mild ■ Hybrid-Full
■ PHEV ■ Fuel Cell ■ フルEV（電気のみ）

ガソリン車と比較した樹脂使用量

【単位】 kg/台

150～160

その他
インプラ
ゴム

PP

※ ミドルサイズ5人乗り自動車
(重量1300-1400kg)
で当社想定

+

アンダーパネ
バッテリーパ
ック
ボディ系

210～220

その他

インプラ

ゴム

PP

ガソリン車

EVをはじめ次世代モビリティ

当社製品使用量：
40%増の可能性



幅広い製品ラインナップで、EVはじめ自動車の軽量化・質感向上など様々なニーズに応える

●外装

軽量化・質感向上・空力特性

PPコンパウンド

世界No.2

タフマー®

世界No.2
アジアNo.1

リサイクルPPコンパウンド
三井EPT® ミラストマー®



●フランク(フロントランク) EV ⚡

PPコンパウンド

●電装・駆動システム EV ⚡

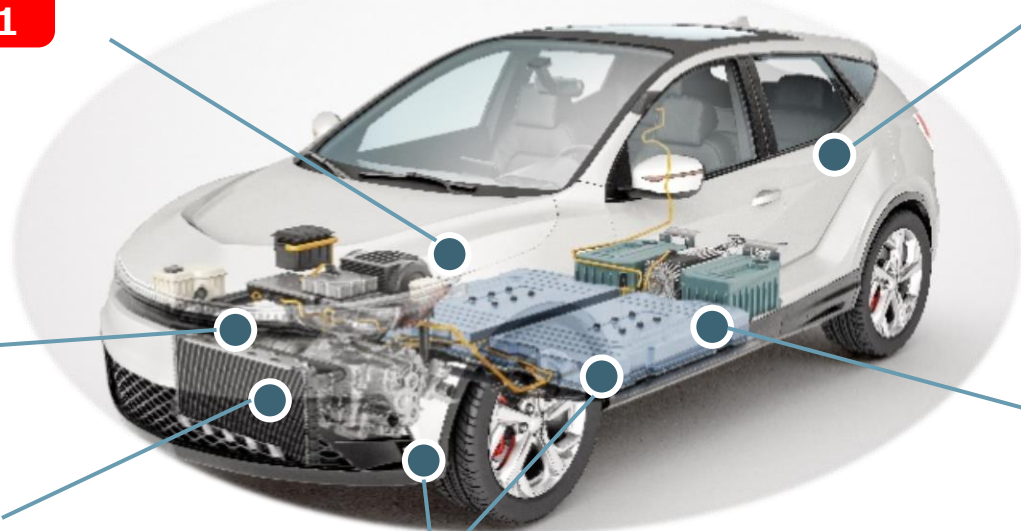
高速充電・絶縁性向上

アーレン® オーラム®
三井EPT®

●冷却システム EV ⚡

長期信頼性

アドマー® 三井EPT®



●内装

軽量化・質感向上・低臭気・静音

PPコンパウンド タフマー®

NAGORI® バイオコンポジット

ミラストマー®

世界No.3
アジアNo.2



●バッテリー周辺 EV ⚡

大容量化・安全性・軽量化

PPコンパウンド アドマー®

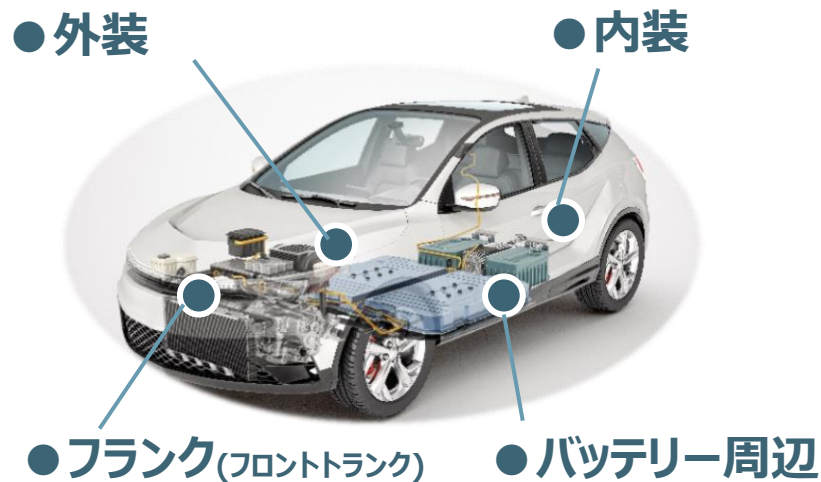
モストロン®

ポリマール®マツト(SMC)等



徹底した地産地消戦略で自動車メーカーのグローバル戦略にスピーディーに対応

自動車の様々なパーツで使用するPPコンパウンド



自動車業界を代表する
国内外メーカー から 高い評価 を受け

世界シェア No.2



世界主要地域で9つの生産拠点、7つの研究拠点を有する

欧州

生産台数 1,700万台



日本

生産台数 800万台



北米

生産台数 1,500万台

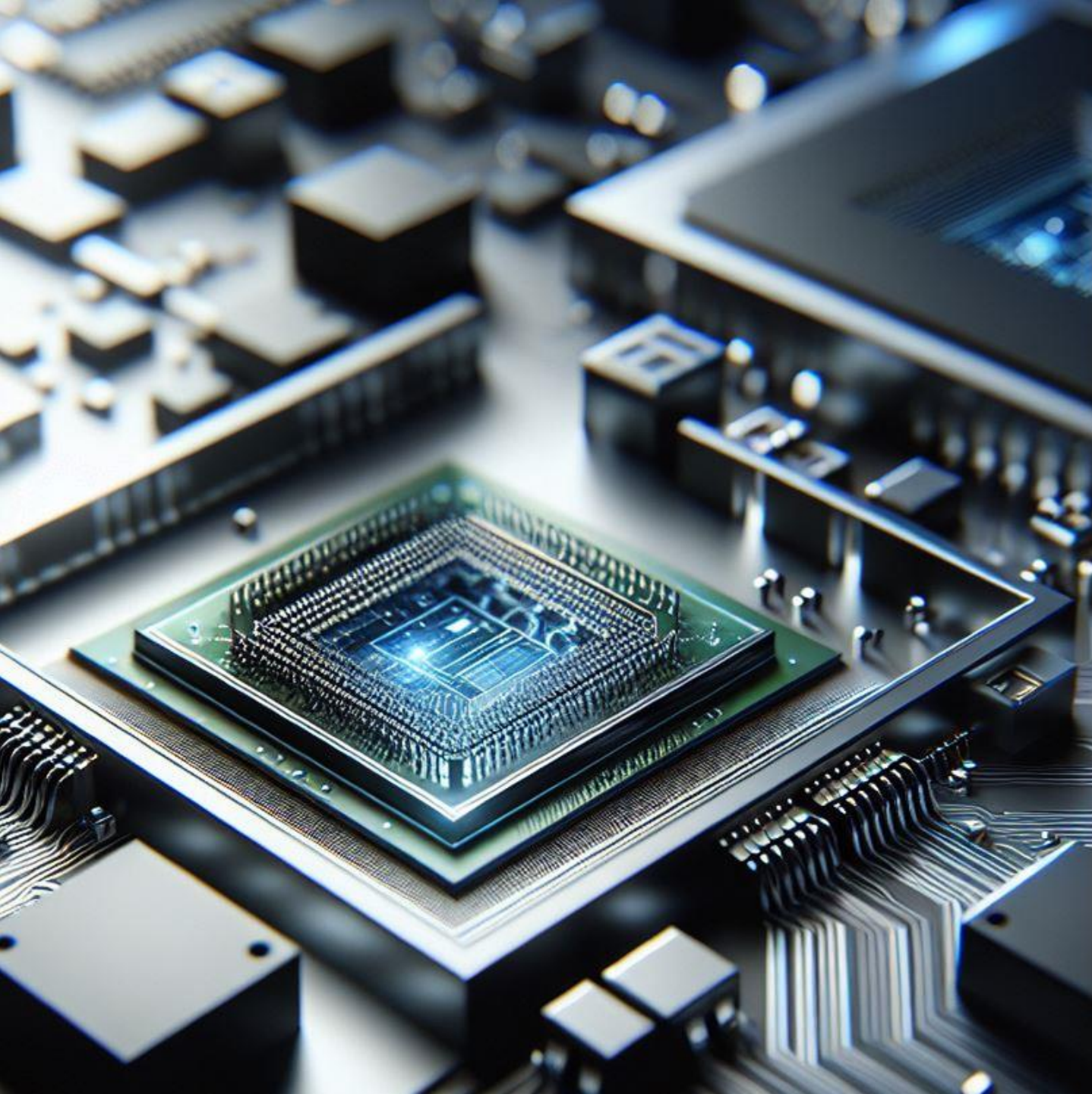


アジア (日本除く)

生産台数 4,000万台



* 自動車生産台数 2025年予測 (外部機関参考による当社推定値)



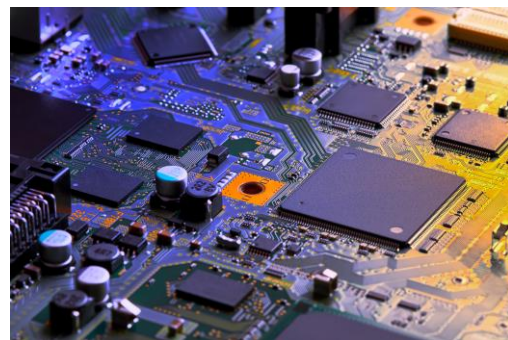
4. デジタル化

半導体関連製品
スマホカメラレンズ材料

デジタル化を支える
3つの世界No.1シェア製品



PCをはじめ
電子機器の
高機能・高効率化



生成AIの普及
5Gの本格化



画像を作成して

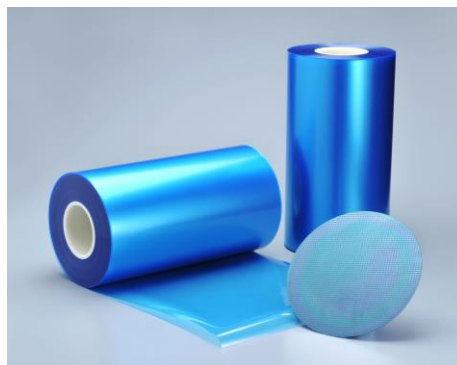
文章を要約して

半導体関連製品の進化が不可欠

世界シェアNo.1

半導体製造工程用テープ
イクロステープTM

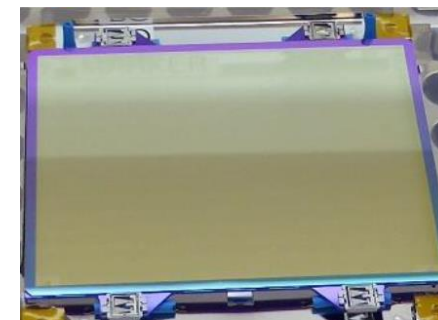
日本に加え、**台湾**にも
生産拠点を保有
(24年能力増強@台湾)



世界シェアNo.1

フォトリソ用防塵カバー
ペリクル

世界トップの供給力
世界初、唯一の
EUVペリクルを量産





スマホカメラレンズ材料 アペル®

世界シェアNo.1

スマホ



多用途展開を加速

VR/AR



HUD*1



車載カメラ



*1 ヘッドアップディスプレイ（車の運転中にドライバーの目線の上に情報を映し出す装置）

ARグラス向け光学樹脂ウエハ ディフラ™を開発

AR



3インチ

6インチ

8インチ

8インチサイズは**世界初***

*当社調べ

ARグラス映像の

広視野角

高鮮明性

に寄与

大手テクノロジー企業での採用獲得

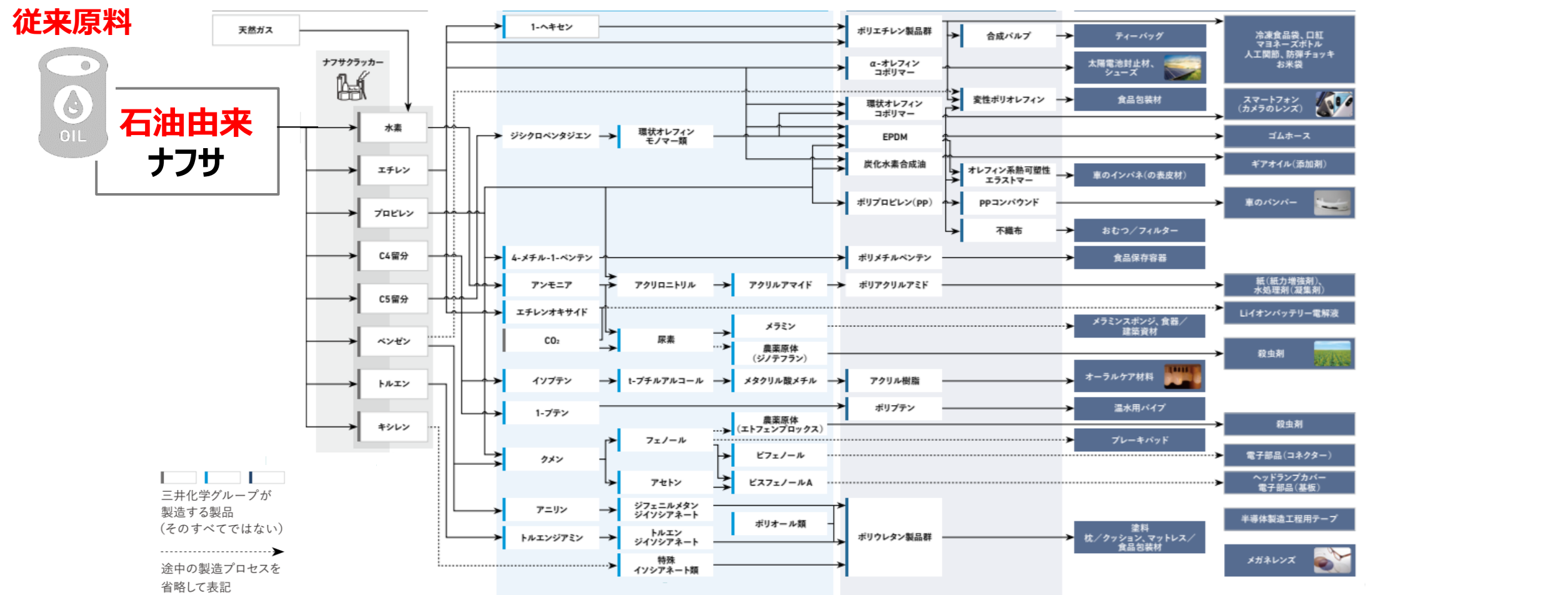
▶▶ARグラスでの標準搭載化を目指す



5. 持続可能な社会

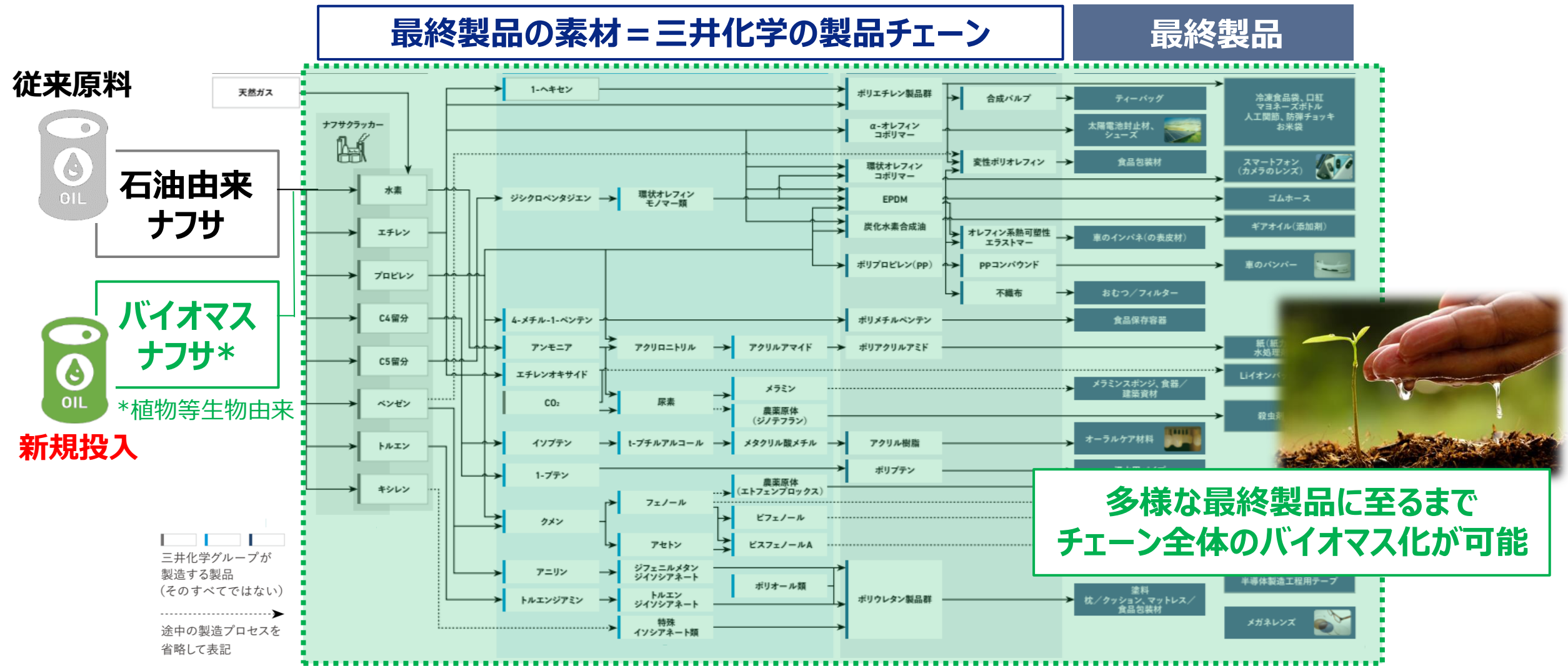
石炭化学、石油化学
そしてグリーンケミカルへ

日本初、バイオマスナフサを原料にバイオマスプラスチックを製造

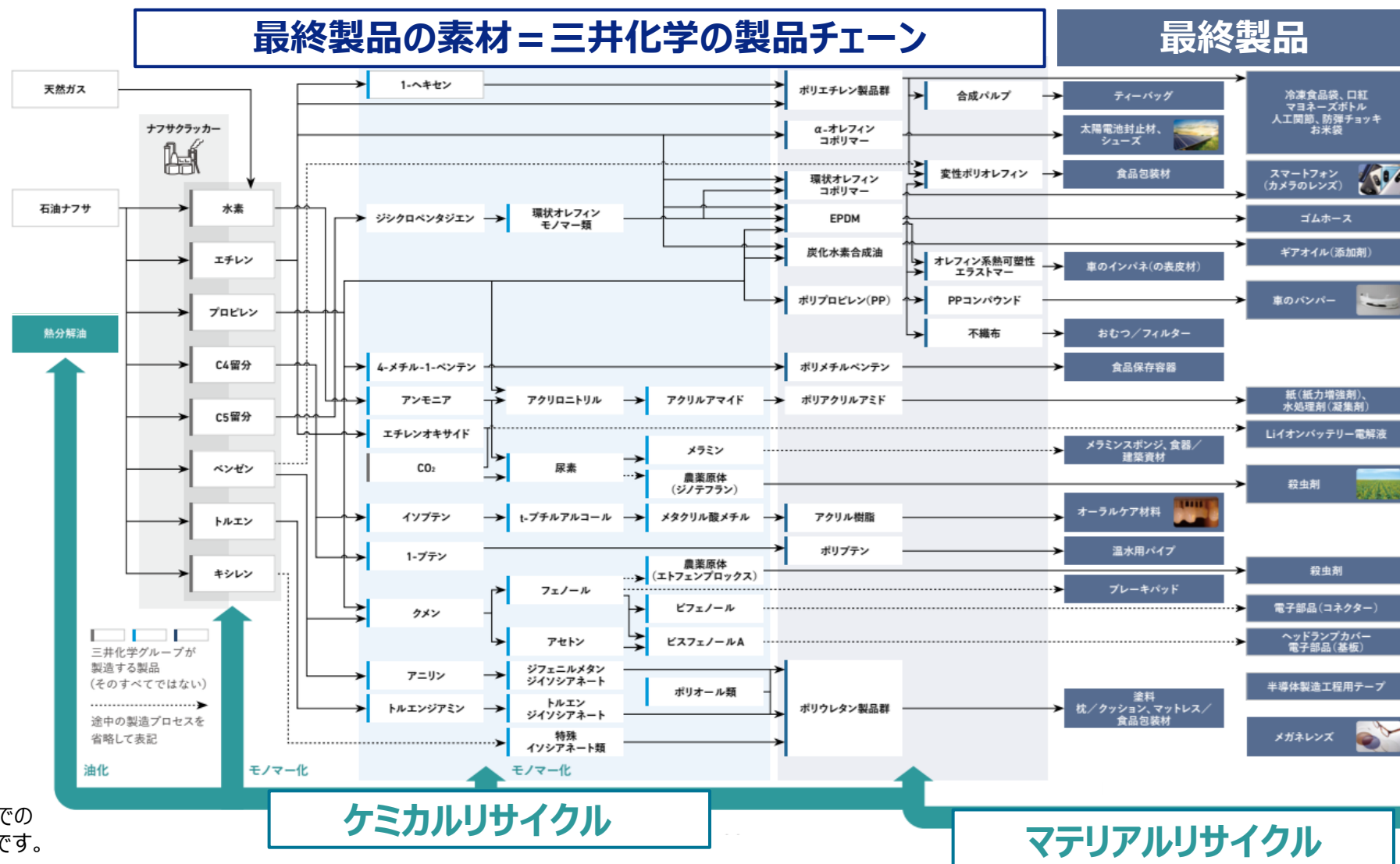


本図は原料から最終製品までの一部フローを図式化したものです。

日本初、バイオマスナフサを原料にバイオマスプラスチックを製造



廃プラスチックをリサイクルする取り組みも積極的に進める



本図は原料から最終製品までの一部フローを図式化したものです。

低炭素原燃料への転換に向けた 他社・地域連携、補助金の活用

当社が目指す燃料転換

ナフサクラッカーの燃料を
アンモニアに転換し燃焼時の
CO₂発生を限りなくゼロへ



他社・地域連携

発電・産業分野など幅広い分野で
活用期待があるアンモニア

- ▶ 三井物産(株)、(株)IHIとともに
 - ・大阪地区でのアンモニア受入・貯蔵・供給拠点の整備
 - ・関西・瀬戸内地域での活用拡大
- に向けた共同検討を開始

本事業は資源エネルギー庁によるエネルギー供給構造高度化事業
コンソーシアムの令和6年度「非化石エネルギー等導入促進対策費補助金
(水素等供給基盤整備事業)」に関する公募に採択されています

海水由来ミネラル成分を原料とした 当社素材が新型シェーバーに採用

パナソニック社「ラムダッシュ パームイン」



陶器や天然石のような質感

ミネラル由来の抗菌性・抗ウイルス性*

* SIAA(*抗菌製品技術協議会) マークを取得

採用された当社素材 **NAGORI®** とは
海水由来ミネラル成分(最大75%)を原料とした材料

海水の淡水化過程で廃棄される濃縮水の将来的な利活用を
促進し、今後拡大する海の環境問題の低減を目指す

こんな風にご理解いただけていたら幸いです

メガネに自動車、スマホも半導体も？ 成長に期待できる市場でトップシェア製品を持つ会社



三井化学

三井化学、意外と身近にいたんだ

過去の実績を見ると分かる、安定した株主還元

化学企業だからこそ、サステナビリティへの本気の取り組み

未来が変わる。化学が変える。

Chemistry for Sustainable World



三井化学

Challenge Diversity One Team

ご清聴ありがとうございました

本資料の計画は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。